

進路だより ～就職試験の内容について～

進路指導部 横田 裕美

「就活」に関しては、求人する企業・事業者も複数の応募者の中からふさわしい人物を選び出す「選考」を行います。選考方法は企業ごと、業種・職種ごとに異なります。選考は、「履歴書」・「エントリーシート」・「調査書」・「小論文」などによる書類選考、「個人/集団面接」・「筆記試験」・「実地試験（パソコン操作等）」など試験会場で実施するものを組みあわせて行われます。

やしまの3年次向けの選択科目「キャリアガイダンス」では、履歴書の書き方や面接の受け方の基本事項を学びます。そこで、今回は、採用試験として行われる「筆記試験」を紹介します。

【筆記試験の目的】

筆記試験は、「基本的な社会常識を有しているか」、「基本的な学力（文章を読み取る力や漢字の読み書き）を有しているか」、「職場や職種への適性はあるか」、「職場でのコミュニケーションや協調が図れる性格か」といった点が評価されます。また、単に採否だけではなく、採用の場合「どの部署に配置するか」や研修計画の資料になります。

事務系の職種で課されることが多いのですが、現業系の職種でも、顧客との対面サービスやチームとしての活動が重視されることから、能力適性試験や性格適性試験が課されることも多くなっています。また、応募が殺到する企業では、面接に進むための一次選考として利用されることも多くなっています。

特に近年のトレンドで、従来の試験会場で実施していた筆記試験を、ネット試験によって実施する企業が増えてきています。企業にとって実施や採点が容易なメリットだけでなく、応募者が情報機器を操作するスキルの評価にも利用できるメリットがあるとのことです。



【言語問題（国語）、非言語問題（数学）】

企業ごと、また職種によって内容はさまざまですが、次の一部または組み合わせて出題されます。

いずれも、「攻略本」や「問題集」が広く出版されていますので、経験やあたりをつけておくことが大事です。また、事前に出題分野や傾向を教えてくれる企業もあります。

- ・ 社会人としての一般常識（中学・高校レベル）や、オフィス業務をする上での基本的知識
- ・ 「文章を読む力」「書く力」「漢字や敬語使用の力」「加減乗除などの計算」の評価
- ・ 新聞記事やニュース報道の知識からみた社会の動きへの関心の程度



【能力適性試験／性格適性試験】

「能力適性試験」は、論理的思考能力、コミュニケーション能力、問題解決能力といった仕事に必要な地頭を持ち合わせているかを評価します。「性格適性試験」は、協調性やストレスへの対応力などを評価します。能力適性試験と性格適性試験を一体として行なわれる場合も多いです。



時間内に解ききれないような大量の問題を課したり、パズルのような問題があったりしますので、ぶっつけ本番では失敗することもあります。「SPI」「GAB」「玉手箱」といった標準的な試験ツールを導入する企業が多いので、「適性試験攻略本」や「問題集」を事前にこなしておく、本番で慌てずに対応できます。